

duomo…イタリア語で町一番の教会という意味です。弊社がお客様や地域の人たちから親しまれ必要とされ町一番の会社になれるようにとの願いを込めてこの名前に決めました。

「10年偉大なり、20年畏るべし、30年歴史になる」これは、継続することの大切さを説いた中国のことわざと言われていますが、私が、今の場所に、水回りのリフォーム工場の専門店という意味を込めた「Hearty（ハーティ）」というお店を開いてから、この12月で30年になりました。これまでのご愛顧、本当にありがとうございました。そして、これからも、変わらずご愛顧のほどよろしくお願ひ申し上げます。良いお年をお迎えください。!(^^)!

## HOUSE de Organic 北海道視察報告



モエレ沼公園

約1年ぶりに私が参加させていただいている高断熱高気密住宅の勉強会「はうすでおーがにつく」の定例会が北海道で開催されました。いつもは2か月に一度の頻度でいろんなところに出かけて実際の建築現場や、優れた建物、著名な専門家のセミナーなどを見聞きするのですが、コロナの影響で暫くの間開催されていませんでした。

事前の予報では、大荒れで寒いとのことでしたので、しっかりと防寒対策をして出かけて行ったのですが、初日は、晴れて、暑いくらいでした。今回視察をしたのは、イサムノグチがデザインをしたモエレ沼公園、北海道立総合研究機構建築研究本部、北海道立北の森づくり専門学院そして、YKK a P北海道工場です。

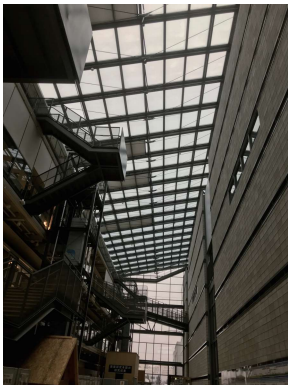
それぞれに、良かったのですが、モエレ沼公園は、ピラミッドの形をした建物だけではなく、公園そのものを一つの彫刻としてデザインをしているというところがとても印象に残りました。

建築研究本部の建物は20年前に建てられています、動力を極力使わないで自然の光や、風を利用して省エネを実現しています。今でも日中は天気が良ければ照明器具を殆ど使わないでいいそうです。

北の森づくり専門学院では、今年できたばかりの学舎を視察しました。カラマツやトドマツが道産材で、それを使う現場をなるべく増やして行って、林業として、持続的に維持発展のできる体制や人員の教育を考えているということがよくわかりました。

そこで使っていた暖房用のボイラーは木製チップを燃料とするバイオマスボイラーでしたが残念なことに日本製ではなくてオーストリア製でした。日本ではまだまだ良いものがないということで、サステナブルな社会に向けての取り組みが遅れているのだなと感じました。

YKK a Pの北海道工場では、主力商品である樹脂サッシAPW430の製造工程を見せて頂きました。工場の内部は写真撮影禁止でしたのでここではお見せできませんが、オートメーションで作られていく中でも、要所要所は人間の職人技が必要で、特にその一連の作業の花形であるバリ取りの様子は、無駄がなく、きれいで、思わず見とれてしまいました。



建築研究本部



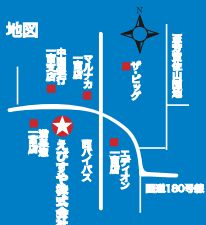
北の森づくり専門学院  
バイオマスボイラー



YKK a P北海道工場



セミナー会場のプロジェクター画面。ここでAPW430のことについて、教えて頂きました。



ご連絡先



086-284-6170

えびすや建築工房

TEL. 086-284-6170 E-mail. info@ebisuya-net.co.jp

FAX. 086-284-6175

こちらから無断でお伺いすることはできません。

えびすや 株式会社 〒701-1211 岡山市北区一言113-1

年内は12月28日まで営業いたします。  
年明けは1月6日から営業いたします。